

甲斐市立敷島中学校 自己評価書（後期）

平成27年 2月3日（火）作成

校長 新海 賢一

記述者 教頭 岸本 貴志

学校教育目標 「一人一人の個性を伸ばし、自ら学ぶ生徒の育成を図る」

- ・課題意識を持って「自ら学ぶ生徒」・・・・・・・・・・知
- ・豊かな感性と思いやりのある「心豊かな生徒」・・・・情
- ・何事にも全力をつくしてやり抜く「よく働く生徒」・・・意
- ・生命を尊重し、心身共に健康な「体を鍛える生徒」・・・体

学校経営方針 生徒一人一人の「生きる力の育成」へ向け

- ・学ぶ意欲を高める教育課程の編成
- ・個性を伸ばす教育の充実
- ・よりよい生き方を求める道徳教育の実践
- ・人権の尊重や福祉、国際感覚に満ちた生徒の育成
- ・生涯学習社会にふさわしい地域に開かれた学校づくり

1 全体評価

前期と同じ全46の質問項目(オリジナル項目を含む)すべてにおいて、最頻度がAまたはB評価であった。最頻度Aは32項目〔前期27項目〕、Bが14項目〔同19項目〕で、前期と同様に比較的高い肯定率となっている。校長の学校経営方針が浸透し、調和のとれた学校運営が行われている成果であると考え。肯定率が9割未満の項目の数は若干減ったものの、地域との連携の分野で肯定率8割未満のものや前期を5ポイント以上下回ったものも7項目あり、今後改善に向けた取組をしていく必要がある。学習指導では、自己評価と生徒アンケートや保護者アンケートの結果にギャップが見られるものがあり、生徒や保護者の要求に応えるべく、さらに工夫改善していく必要がある。

学校評価の結果を全職員で共有し、成果と課題を明確にし、次年度へ向けてよりよい教育活動を展開していけるように計画づくりをしていきたい。

次年度へ向け、特に改善が必要な項目、継続が必要な項目を挙げてみると

① 学校教育目標・学校経営について

- ・学校教育目標や校長の経営理念を全教職員が共有し、今年度の反省に基づいた上でPDCAサイクルを重視した教育活動を継続していく。

② 学校運営について

- ・防災、防犯、学校安全、情報セキュリティ等に対する職員の危機管理意識は高まりつつあるが、課題もまだまだ多い。判断力や実践力を高める研修や訓練を充実させていきたい。
- ・職員会議や校内研究への参画意識を高めていきたい。

③ 学習指導について

- ・「習得、活用、探究」に関わる甲斐市指定研究は一区切りとなる。今後も「わかる授業」づくりに向けた工夫改善を継続し、一人一人の生徒に確かな学力を身につけさせてい

く。

- ・本校の課題である家庭学習の充実については改善傾向が見られる。家庭と連携しつつ、個別指導や集団指導を今後も継続していく。

④ 生徒指導について

- ・校長の方針の下、校内組織が機能し連携ができています。情報の共有、職員間の協力体制ができており、素早い対応ができていますので今後も継続する。
- ・課題を抱えている生徒や家庭に対しては、今後も寄り添いながら粘り強い指導を継続していく。

⑤ 地域との連携について

- ・地域の方々には学校に対して概ね協力的であるが、それに甘えず、地域や保護者の声を積極的に聞き、学校運営組織の改善と活性化を図っていく。また、地域や保護者との連携を一層深め、開かれた学校づくりをすすめる。

⑥ 学校の特色について

- ・鍛練、合唱、読書活動など、学校の特色として行っている教育活動については、今後も充実した活動となるよう継続指導していく。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none">○すべての項目について高い肯定率となっている。○校長の経営方針、経営理念が浸透し、学校教育目標や重点項目を踏まえた教育実践が行われている。○校長の推進するP-D-C-A-C-Aサイクルに基づいた教育活動が概ね実践されている。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・自己評価、学校関係者評価、保護者アンケート、生徒アンケート等の結果を踏まえ、P-D-C-A-C-Aサイクルを意識した学校運営を進めていく。・学校教育目標や指導重点など、校長の方針を全教職員が理解し、校長の意をくんだ教育活動を実践していく。

II 学校運営について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none">○教育活動が教職員間の信頼関係に基づく連携・協力体制の中で組織的に行われている。○情報管理や職員間の連携、協力体制については高い肯定率となっている。○前回の課題であった職員の危機意識や認識に改善が見られる。△職員会議や校内研究への主体的に関わる割合が前期を下回っている。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・二度の避難訓練とその事前、事後学習を通して、教師・生徒とも意識や実践力の向上が見られた。しかし、まだ課題も多く、訓練や研修、学習を通してさらに実践力を高めていく。また、危機管理に対するP-D-C-A-C-Aサイクルを機能させ、リスクマネジメントとクライシスマネジメントを適切に行っていく。・組織の一員として、ともに学び合い、協力し合うことを通して学校運営への参画意識の改革を図る。また、校内研究は自己の資質向上、職員会議は教育活動に対する共通認識や業務内容を確認する場であることを再確認し、主体的な関わりを促す。

Ⅲ 学習指導について（生徒用アンケートおよび保護者アンケート等も含めて）	
達成状況	<p>○ほとんどの項目で、前期よりも肯定的回答率が向上している。</p> <p>○基礎基本を重視し、わかりやすい授業を行うために授業づくりや指導法の工夫改善を継続して行っている。</p> <p>△反面、生徒や保護者の回答では授業がわかるという肯定率が教師の自己評価に比べ低く、認識にギャップが見られる。</p> <p>△生徒の学ぶ意欲を引き出そうとしているが、授業中の発言を引き出す工夫などについては改善の余地がある。</p> <p>△家庭学習、自主的学習を充実させる指導に力を入れる必要がある。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の生徒の学習内容の到達状況を多角的な方法での確に把握し、個に応じた指導方法を工夫する。また、自己の授業方法を振り返り、常に授業改善に努める。 ・ すべての教科で言語活動の充実を図り、発表（表現）したり、話し合ったりする等、生徒が主体的に活動する場面を積極的に取り入れる。 ・ 学級内で開かれた人間関係づくりを心がけ、日頃から自由に発言できる雰囲気をつくる。 ・ 学年、学級、教科等で連携し、家庭学習や自主学習の指導を継続していく。

Ⅳ 生徒指導について（生徒用アンケート等も含めて）	
達成状況	<p>○校内組織が有効に機能しており、生徒指導上の情報や課題を全職員が共有し、迅速かつ適切に対応できている。</p> <p>○「報告・連絡・相談・確認」が適切に行われ、組織としての風通しがよく、連携が密に行われている。</p> <p>○「困ったことがあったら相談できる先生がいる」割合が前期に比べ、改善傾向がみられる。</p> <p>△いじめ問題については未然防止と早期発見に努め、組織的な対応を行っているが、前期に比べ、肯定率がやや下がっている。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒との信頼関係の深化をさらに図り、生徒理解を継続して進める。 ・ 「いじめはどの学校にも誰にでも起きる」という認識を持ち、生徒の状況について日常的にアンテナを高くし、未然防止に努める。 ・ 生徒に寄り添いながら、継続的な声かけやコミュニケーションを通して、小さな変化に気づき、適切にアドバイスできる教師でありたい。小さなことの積み重ねが生徒や保護者、地域との信頼関係を深める。このことを踏まえ、学習指導、生活指導、教育相談の一層の充実を図っていく。 ・ 課題を抱えている生徒に対しては、保護者や関係機関との連携を密にし、継続的かつ粘り強く働きかけていく。 ・ 対処療法だけでなく、体験活動の充実や生徒の良い面の伸長を図る等、積極的な生徒指導を心がける。

V 地域との連携について	
達成状況	○P T A活動では、協力的で肯定的意見が多い。 △保護者や地域の意見や要望を受け止めたり情報収集したりすること、学校の教育活動に対する保護者の理解を促進することについては、前期を大きく下回り、課題がある。
改善策	・本校のP T A活動の特色でもある「一人一実践活動」を継続、充実させ、保護者との連携を一層深めていく。 ・懇談会、アンケート、その他あらゆる方法で保護者や地域の意見や要望を吸い上げる努力をする。また、学校からの情報発信を積極的に行い、地域に開かれた学校づくりを一層進める。 ・各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動の年間指導計画の中で地域人材活用場面を洗い出し、積極的に取り入れる。

VI 学校の特色に関して	
達成状況	○前期と同様に非常に高い肯定率である。P T A活動を通しての取り組み、年輪祭や合唱祭などへの参加協力など、学校の教育に対する理解が得られていると感じる。 ○本校の伝統ある活動を単に毎年繰り返すのではなく、毎年工夫改善を少しずつ加えながら実施できていることが意義深い。

3 まとめ

<p>〈成 果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に見て本校の教育は、学校教育目標の具現化に向け、校長の経営方針（全教職員が英知を結集し、理解と協力の和で結ぶ学校づくり）が全教職員に浸透し、それに基づいた教育活動が行われている。また、教職員員間の協力体制があり、「報告・連絡・相談・確認」が日常的に行われている。今後も維持向上させていきたい。 ・昨年度及び前期の学校評価の結果を踏まえ、本校の課題点を全教職員が共有し、重点的に取り組みを行うことができた。その結果、危機管理や学習指導において成果が現れ、改善につながってきている。今後も継続的な取り組みをしていきたい。 ・校庭、玄関、体育館等、生徒が学ぶ環境を整備していただいたことにより、充実した教育活動が行われている。 <p>〈課 題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が他の教職員と連携する中で、学び合い、支え合い、協力し合いながら主体的に学校運営へ参画していく意識をさらに高めたい。 ・学習指導、生徒指導、生活指導はこれでよいというものはない。課題に気づく目を持ち、組織をフルに活用して改善、向上を目指したい。 ・保護者、地域と学校間で双方向で情報を発信、共有し合うことを通して、教育活動の工夫・改善を図り、開かれた学校づくりを一層進める。
